

8 環境・地域活動

-
- (1) 環境のために心がけていること
 - (2) 「食品ロス」という言葉の認知
 - (3) 食品ロス削減のために心がけていること
 - (4) この1年間に参加した活動と今後の参加意向
-

8 環境・地域活動

(1) 環境のために心がけていること

■ “ごみと資源の分別”が9割弱、“不要なレジ袋を断る”が7割台半ばまで増加して、上位

問40 あなたが、環境のために心がけていることは何ですか（○はあてはまるものすべて）。

図8-1-1-① 経年比較／環境のために心がけていること

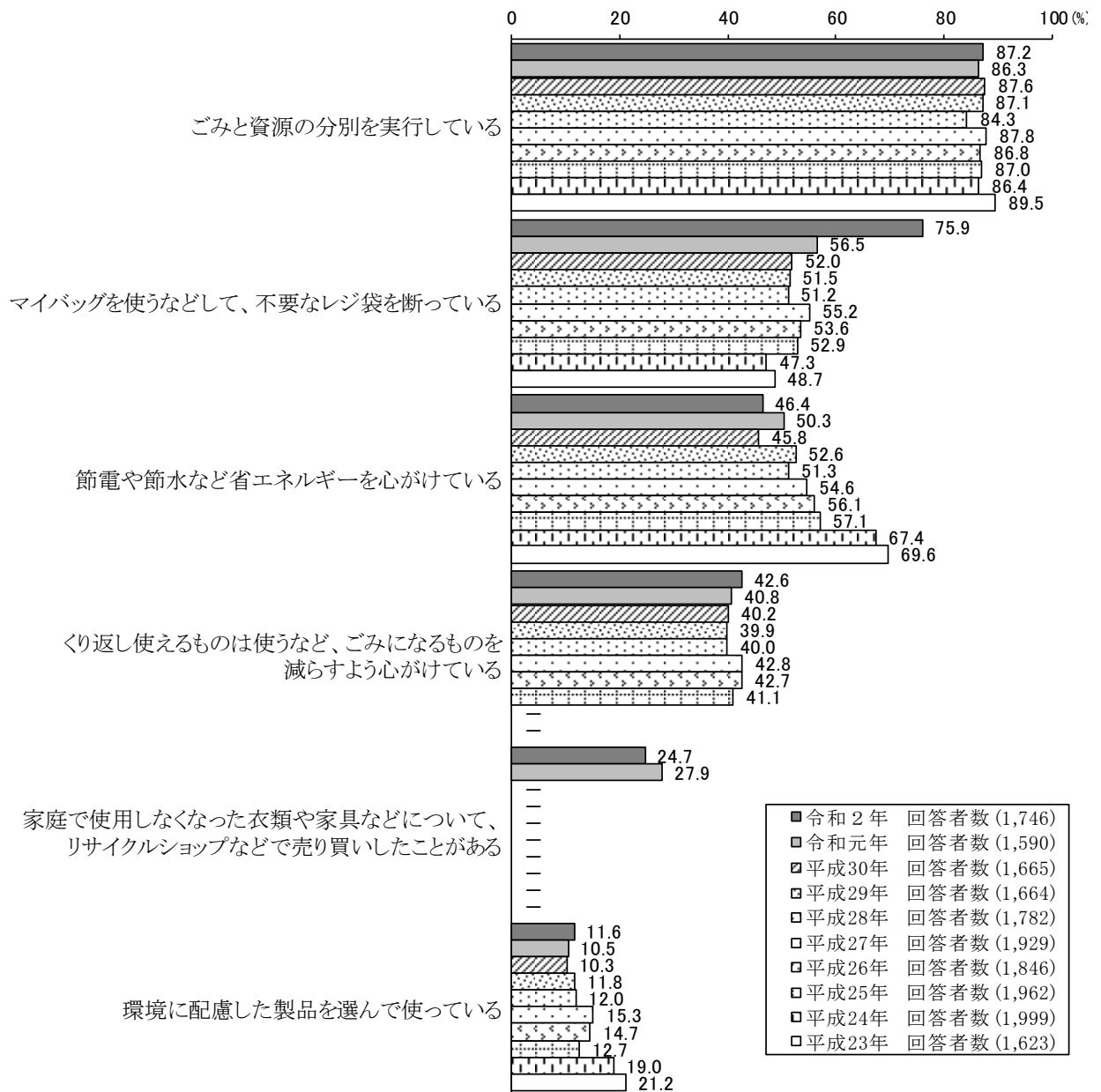
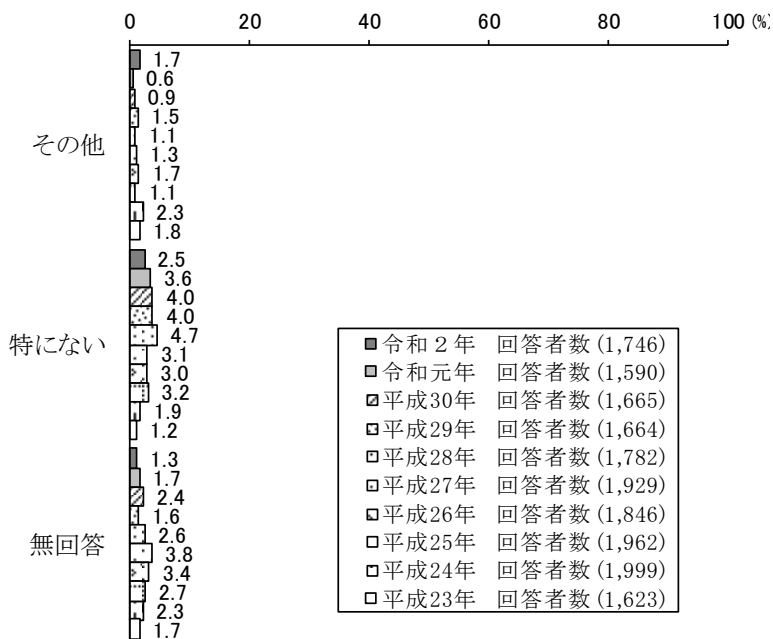


図8-1-1-② 経年比較／環境のために心がけていること



※「くり返し使えるものは使うなど、ごみになるものを減らすよう心がけている」は、平成25年度新設。
 ※「家庭で使用しなくなった衣類や家具などについて、リサイクルショップなどで売り買いしたことがある」は令和元年度新設。

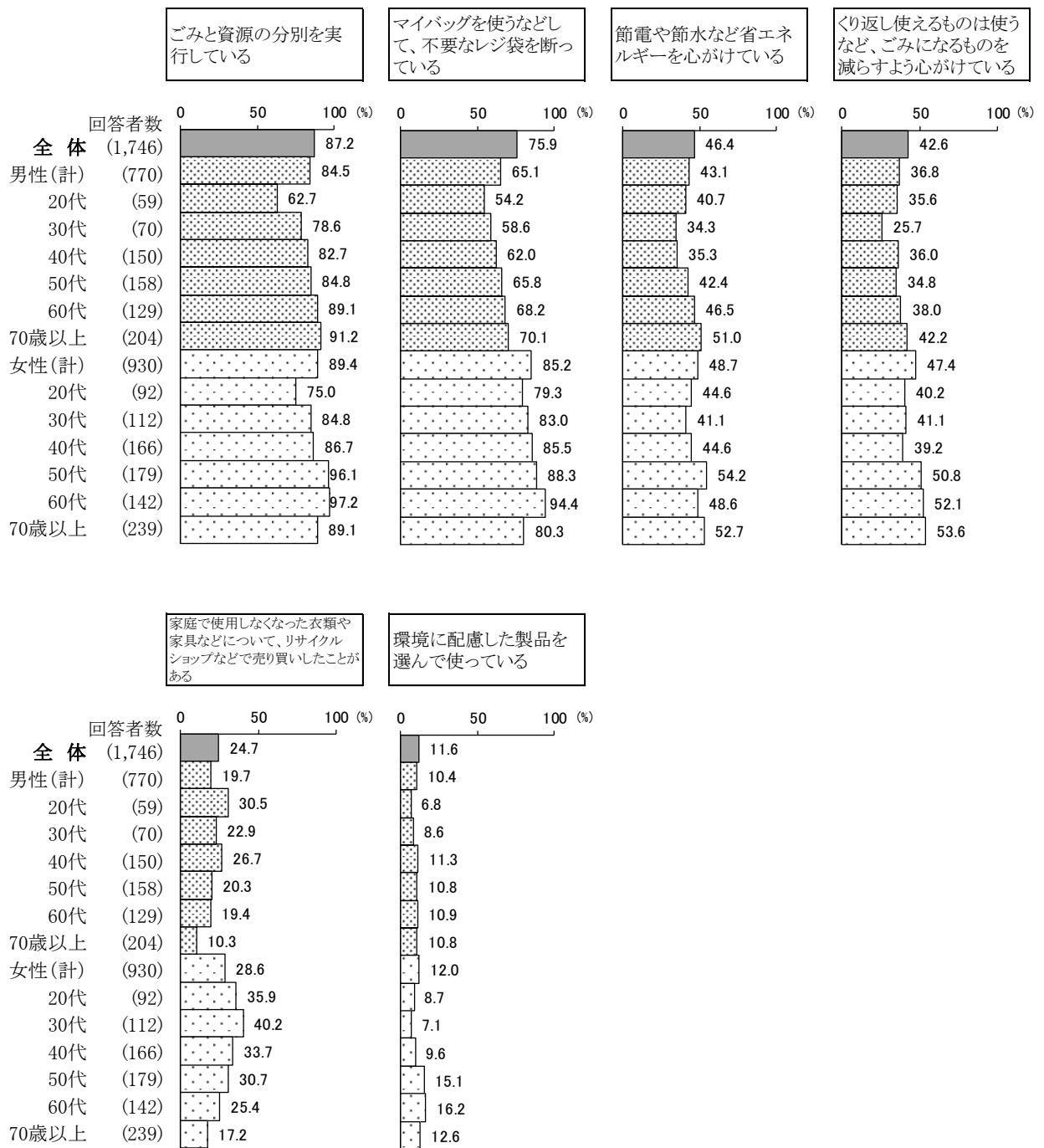
環境のために心がけていることとしては、「ごみと資源の分別を実行している」が87.2%で最も高く、これに「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」が75.9%で続き、以下「節電や節水など省エネルギーを心がけている」(46.4%)、「くり返して使えるものは使うなど、ごみになるものを減らすよう心がけている」(42.6%)の順となっている。

経年でみると、ほとんどの項目で大きな比率の変動や順位の入替えなどがみられない中で、令和2年の7月から小売店にレジ袋有料化が義務付けられた影響を受けて、2位の「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」は今回75.9%と前回(56.5%)より19.4ポイント増と大きく増加している。

性別で見ると、女性はすべての項目で男性より高くなっており、中でも「マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」（女性85.2%＞男性65.1%）で性差が大きくなっている。

性・年代別で見ると、上位項目のほとんどで、男女ともに、50代以上の高齢3年代層が40代以下の中若年3年代層を上回って高めとなっているが、特定の性・年代層が目立って高い項目はみられず、同性の年代別の格差も総じてあまり大きくない傾向となっている。

図8-1-2 性別、性・年代別／環境のために心がけていること

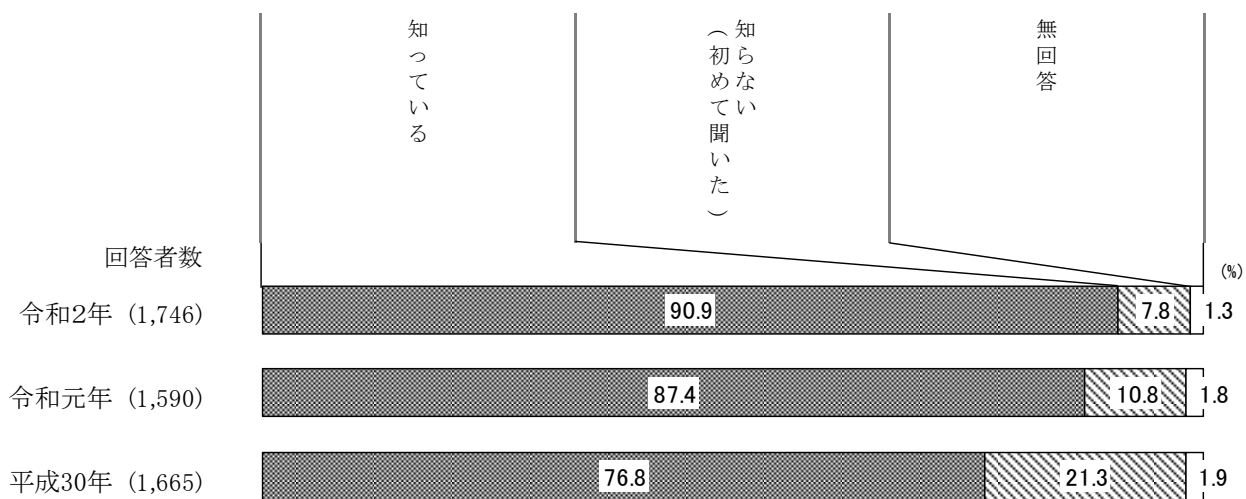


(2) 「食品ロス」という言葉の認知

■ 9割強の人が「食品ロス」という言葉を知っており、認知率は2年続けて伸長している

問41 あなたは、「食品ロス」という言葉を知っていますか（○は1つだけ）。

図8-2-1 経年比較／「食品ロス」という言葉の認知

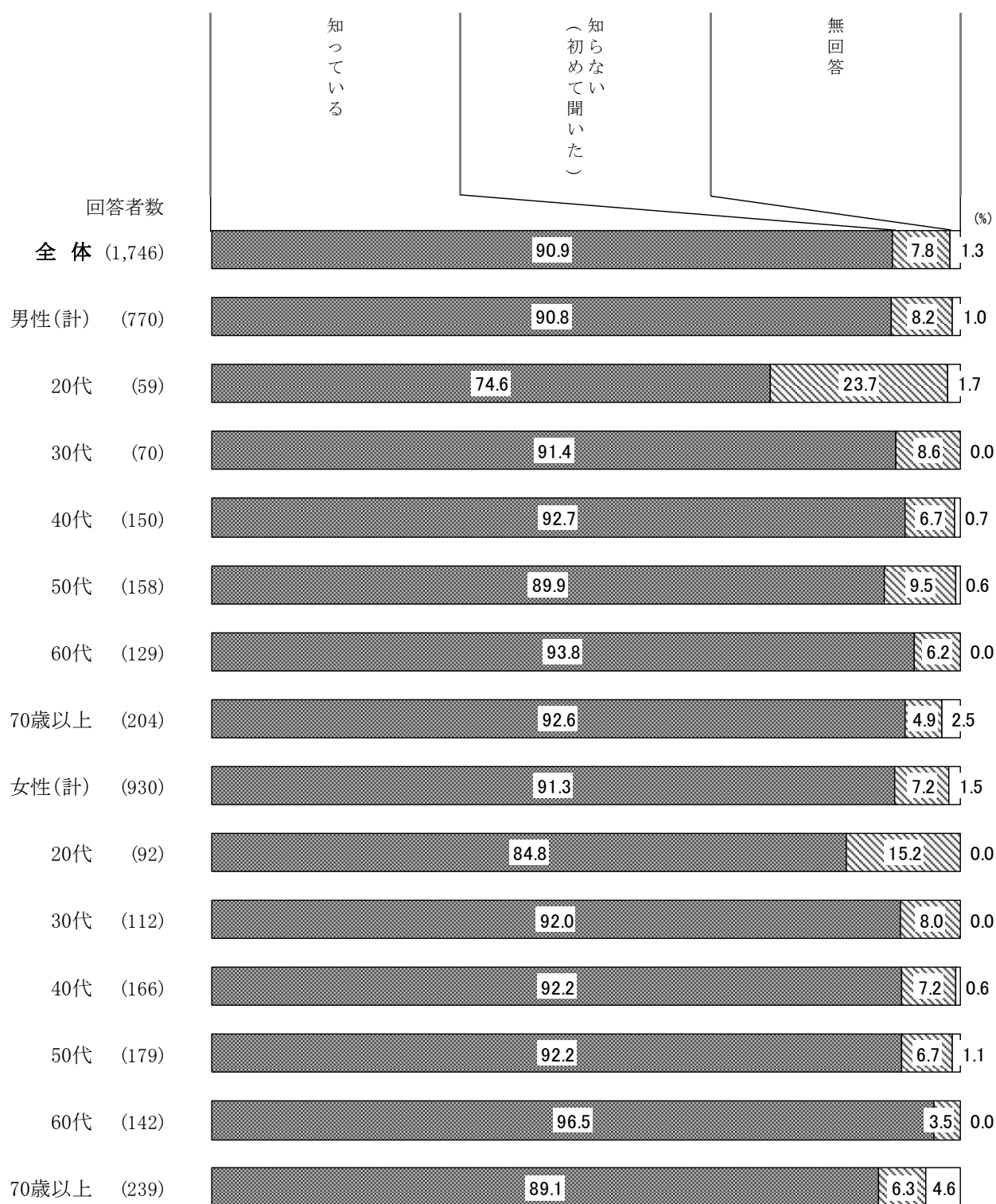


「食品ロス」という言葉の認知は、「知っている」が90.9%を占めて多く、「知らない（初めて聞いた）」は7.8%。

経年でみると、「知っている」は初めて聴取した前々回平成30年の76.8%から前回の87.4%へと大きく伸長した後、今回も90.9%と前回より3.5ポイント増加して、9割を超える知名認知率となっている。

性別で見ると、「知っている」は、男性90.8%、女性91.3%と、ほとんど男女差はみられない。
 性・年代別で見ると、「知っている」は、男性の20代で74.6%ととくに低く、女性の20代も84.8%と低い一方、女性の60代で96.5%と最も高く、これらの高低が目立つ3層を除くと、他の性・年代層では概ね9割前後となっており、他の性・年代層では目立った違いはみられない。

図8-2-2 性別、性・年代別／「食品ロス」という言葉の認知



(3) 食品ロス削減のために心がけていること

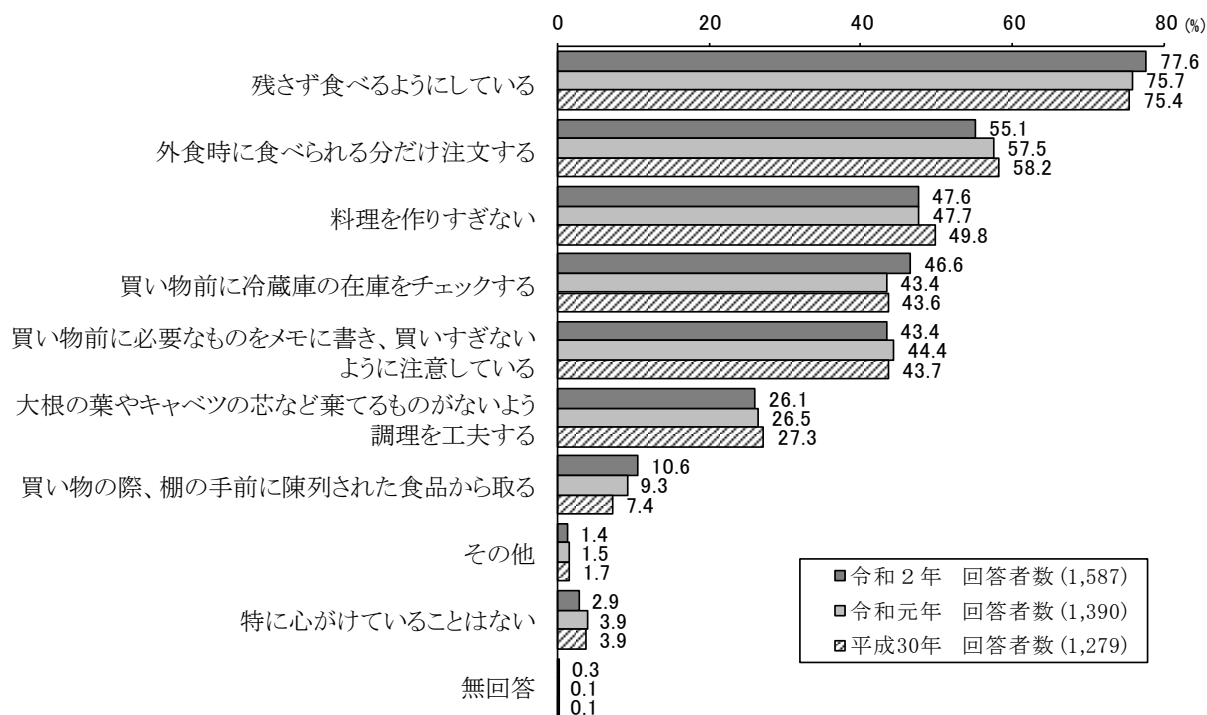
■「残さず食べるようにしている」が8割弱

問41で「1 知っている」とお答えの方に

問41-1 あなたが、食品ロス削減のために心がけていることは何ですか

(○はあてはまるものすべて)。

図8-3-1 経年比較／食品ロス削減のために心がけていること



※「買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している」は、令和元年度までの「買い物前に必要なものをメモに書く」から表現をかえた。

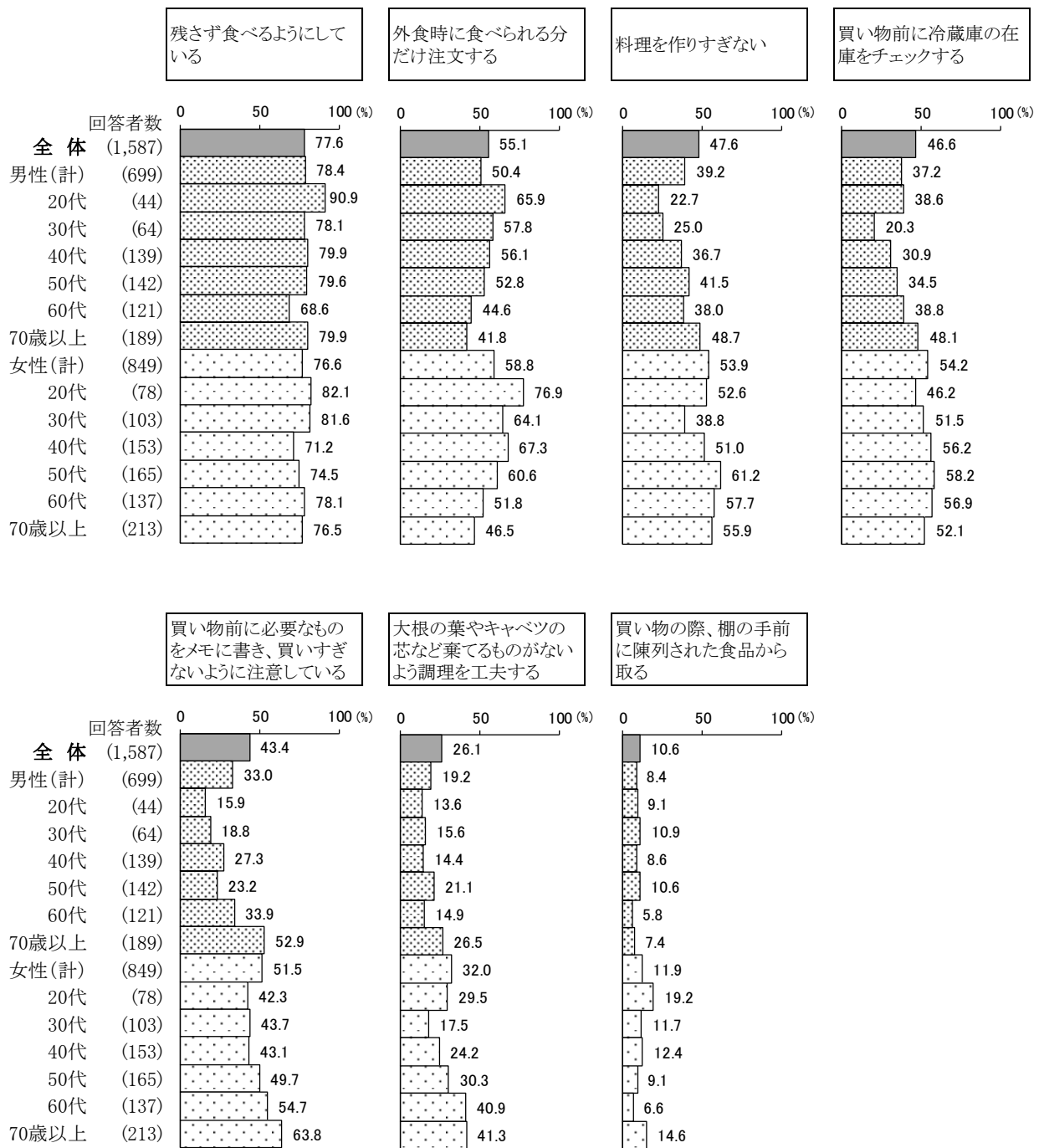
「食品ロス」という言葉を知っている人に、食品ロス削減に心がけていることを聞いた結果は、「残さず食べるようにしている」が77.6%で最も高く、以下「外食時に食べられる分だけ注文する」(55.1%)、「料理を作りすぎない」(47.6%)、「買い物前に冷蔵庫の在庫をチェックする」(46.6%)、「買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している」(43.4%)の順となっている。

前回の結果と比較すると、各項目の比率や順位に大きな変動はみられない。

性別でみると、多くの項目で男性より女性の方がかなり高くなっているが、今回最も高い「残さず食べるようにしている」だけは男性78.4%、女性76.6%で男性の方が僅かに高くなっている。

性・年代別でみると、「残さず食べるようにしている」は男性の20代で9割強、次点の「外食時に食べられる分だけ注文する」は女性の20代で8割弱、「料理を作りすぎない」は女性の50代と60代で6割前後、「買い物前に必要なものをメモに書き、買いすぎないように注意している」は女性の70歳以上で6割台半ば、「大根の葉やキャベツの芯など棄てるものがないよう調理を工夫する」は女性の60代と70歳以上で4割強と、それぞれ他の性・年代層より高くなっている。

図8-3-2 性別、性・年代別／食品ロス削減のために心がけていること



(4) この1年間に参加した活動と今後の参加意向

■ 活動経験では、コロナ禍の影響で“イベントや催し物系”への参加が例年より減少

問42 あなたがこの1年間に参加された活動と、引き続き、または今後あなたが参加したいと思う活動はどれですか（〇はいずれも、あてはまるものすべて）。

図8-4-1-① 経年比較／この1年間に参加した活動

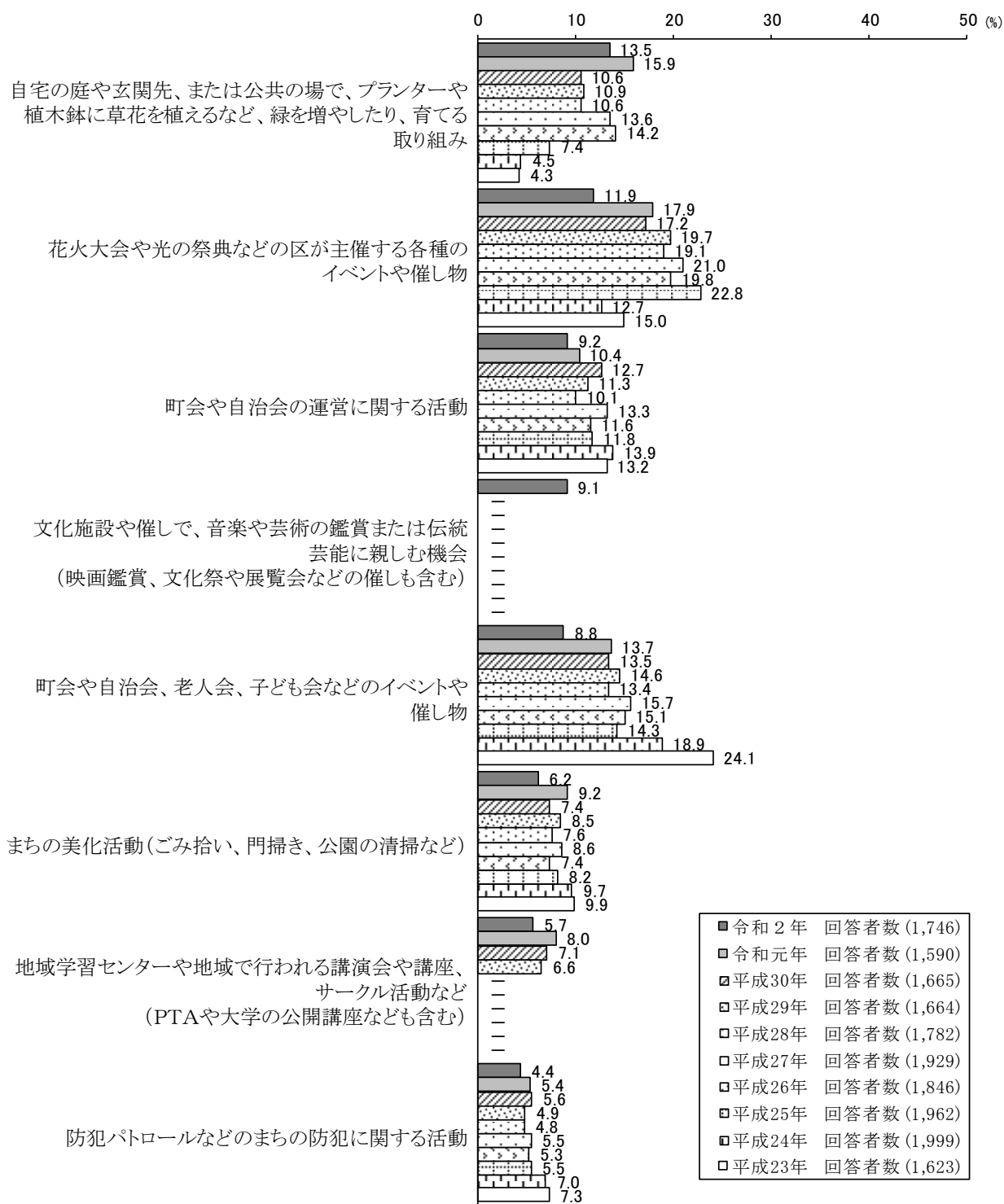
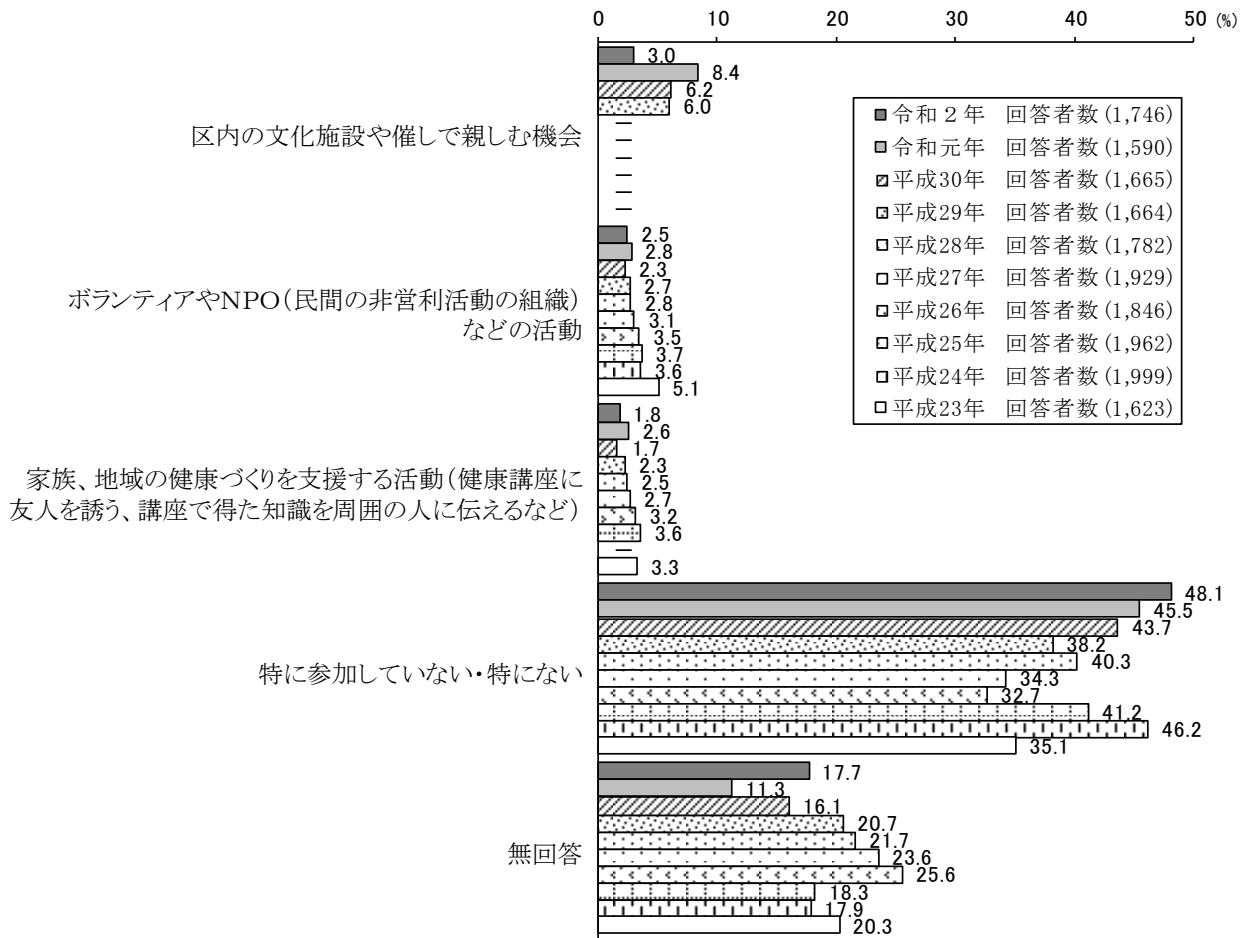


図8-4-1-② 経年比較／この1年間に参加した活動



- ※ 「自宅や店舗の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は、平成26年度から平成30年度まで「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場などでの草花や木、緑のカーテンの育成」で、平成25年度以前は「自宅や公共の場での花壇づくり、緑のカーテンの設置など緑化活動」。
- ※ 「地域学習センターや地域で行われる講演会や講座、サークル活動など」と「区内の文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」は、平成29年度から新設。
- ※ 令和元年度に「8 区内の文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は、令和2年度の同項目の補足項目「8-1 区内の文化施設や催しで親しむ機会」の新設に伴い、項目文巻頭の「区内の」の表記を割愛した。
- ※ 平成24年度は、「家族、地域の健康づくりを支援する活動」を設けていない。

この1年間で参加した活動としては、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」が13.5%で最も高く、以下「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」(11.9%)、「町会や自治会の運営に関する活動」(9.2%)、今回から新設の「文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」(9.1%)の順で続き、「特に参加していない」は48.1%となっている。

経年でみると、比率を減少させている項目が多く、新型コロナウイルス感染症の拡大によるイベント中止の影響を受けてか、「区が主催する各種のイベントや催し物」(6.0ポイント減)と「町会などのイベントや催し物」(4.9ポイント減)の2項目で減少幅が大きくなっている。

図8-4-2-① 経年比較／今後の参加意向

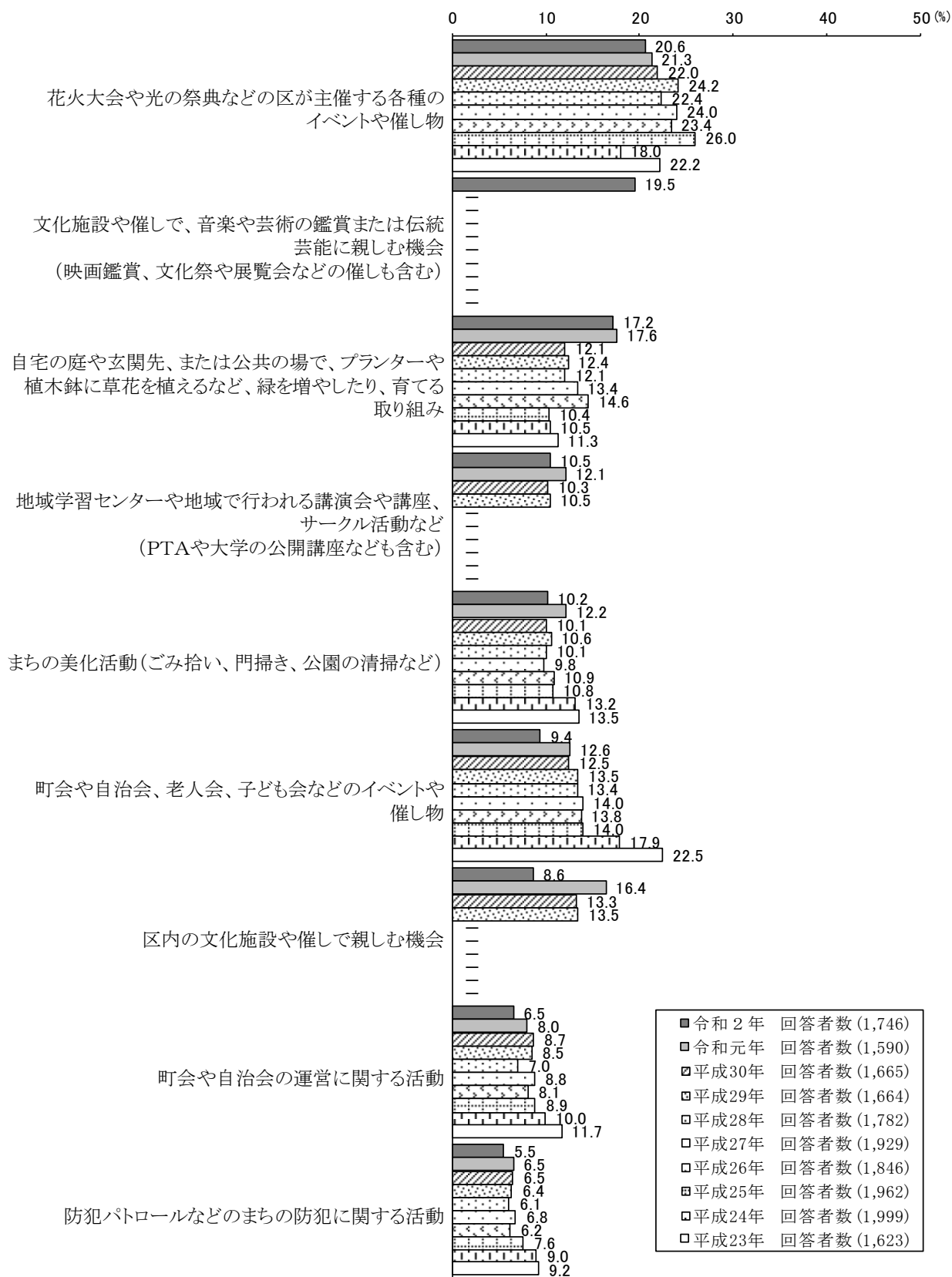
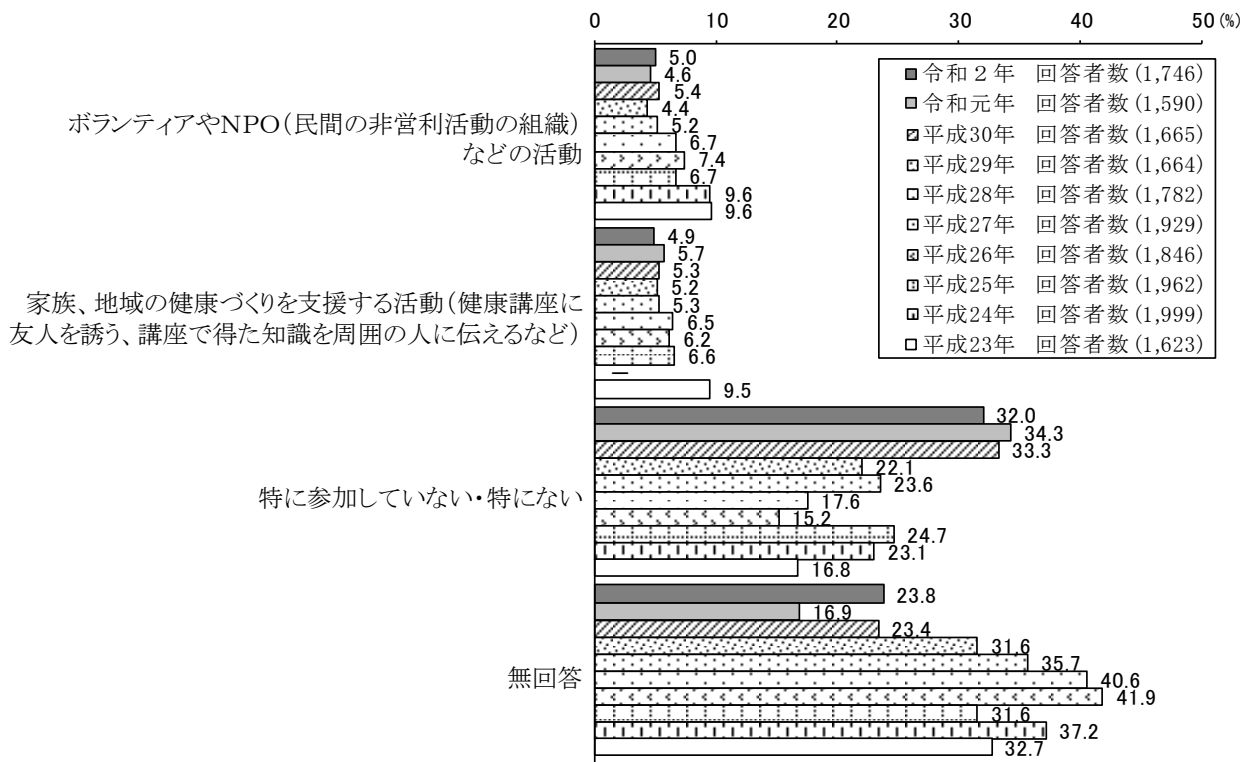


図8-4-2-② 経年比較／今後の参加意向



- ※ 「自宅や店舗の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は、平成26年度から平成30年度まで「自宅や店舗の庭や玄関先、ベランダ、公共の場などでの草花や木、緑のカーテンの育成」で、平成25年度以前は「自宅や公共の場での花壇づくり、緑のカーテンの設置など緑化活動」。
- ※ 「地域学習センターや地域で行われる講演会や講座、サークル活動など」と「区内の文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」は、平成29年度新設。
- ※ 令和元年度に「8 区内の文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は、令和2年度の同項目の補足項目「8-1 区内の文化施設や催しで親しむ機会」の新設に伴い、項目文巻頭の「区内の」の表記を割愛した。
- ※ 平成24年度は、「家族、地域の健康づくりを支援する活動」を設けていない。

今後参加したい活動としては、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」が20.6%で最も高く、以下、新設扱いの「文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」(19.5%)、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」(17.2%)の順で続き、「特にな

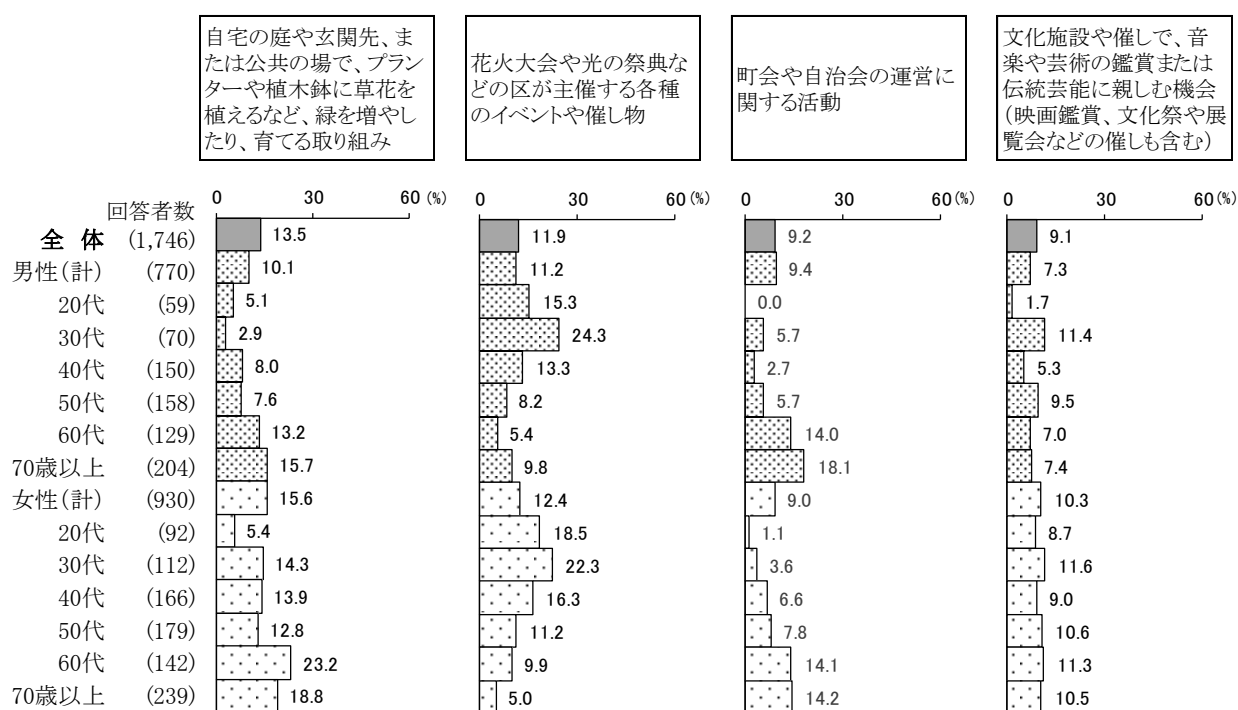
経年でみると、〈参加した活動〉と同様に、新設扱いの「文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」以外は前回より比率が僅かに減少している項目が多く、中でも「区内の文化施設や催しで親しむ機会」(7.8ポイント減)で減少幅が大きめとなっている。一方で、前回減少幅の大きかった「無回答」が6.9ポイント増加して平成30年のレベルに戻っている。

第3章 調査結果の分析 〈 環境・地域活動 〉

〈参加した活動〉の上位4項目について性別でみると、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」で女性の方が約6ポイント高めなのを除くと、目立って大きな男女差はみられない。

性・年代別でみると、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は女性の60代と70歳以上で2割前後、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」は男女の30代で2割台前半、「町会や自治会の運営に関する活動」は男性の70歳以上で2割弱と、それぞれ他の性・年代層に比べてやや高くなっている。

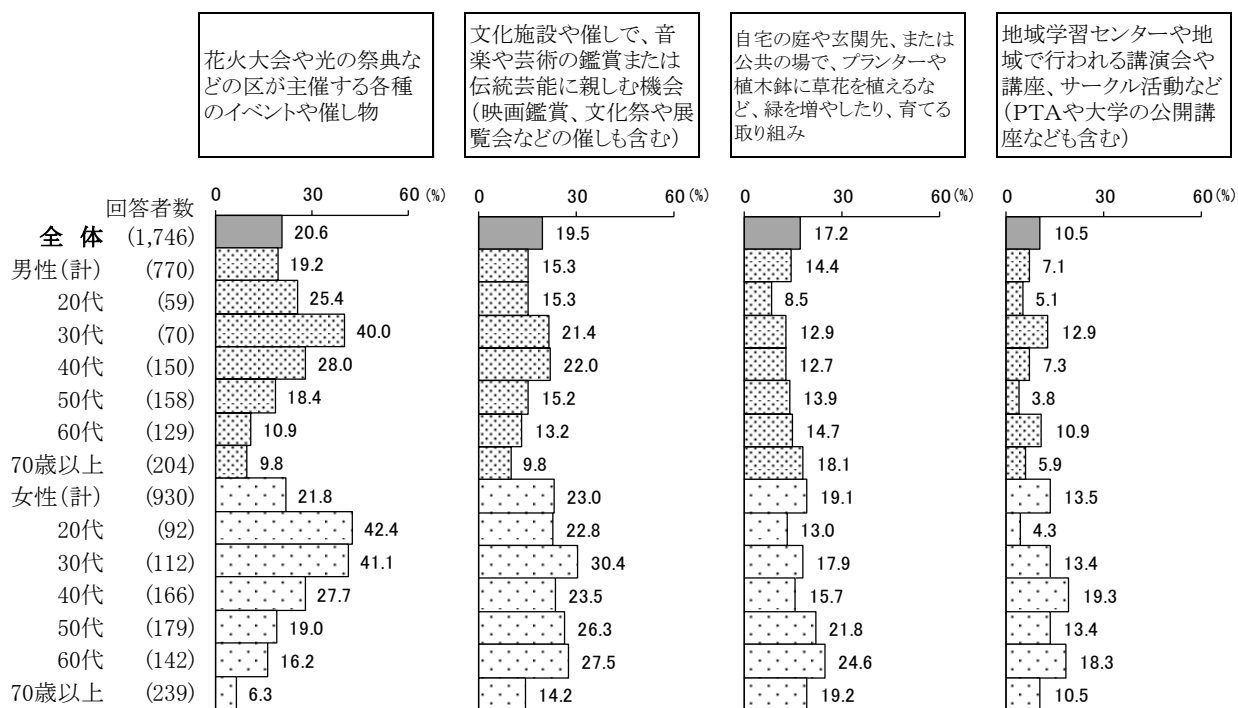
図8-4-3 性別、性・年代別／この1年間に参加した活動／上位4項目



〈今後参加したい活動〉の上位4項目について性別でみると、4項目はいずれも女性の方が男性よりやや高くなっている。

性・年代別でみると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」は女性の20代と男女の30代で4割から4割強と高く、概ね男女ともに若い層ほど高めとなる傾向がみられる。なお、「文化施設や催しで、音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会（映画鑑賞、文化祭や展覧会などの催しも含む）」は女性30代で3割強、「自宅の庭や玄関先、または公共の場で、プランターや植木鉢に草花を植えるなど、緑を増やしたり、育てる取り組み」は女性の60代で2割台半ばと、それぞれ他の性・年代層に比べてやや高くなっているが、目立って大きな違いはみられない。

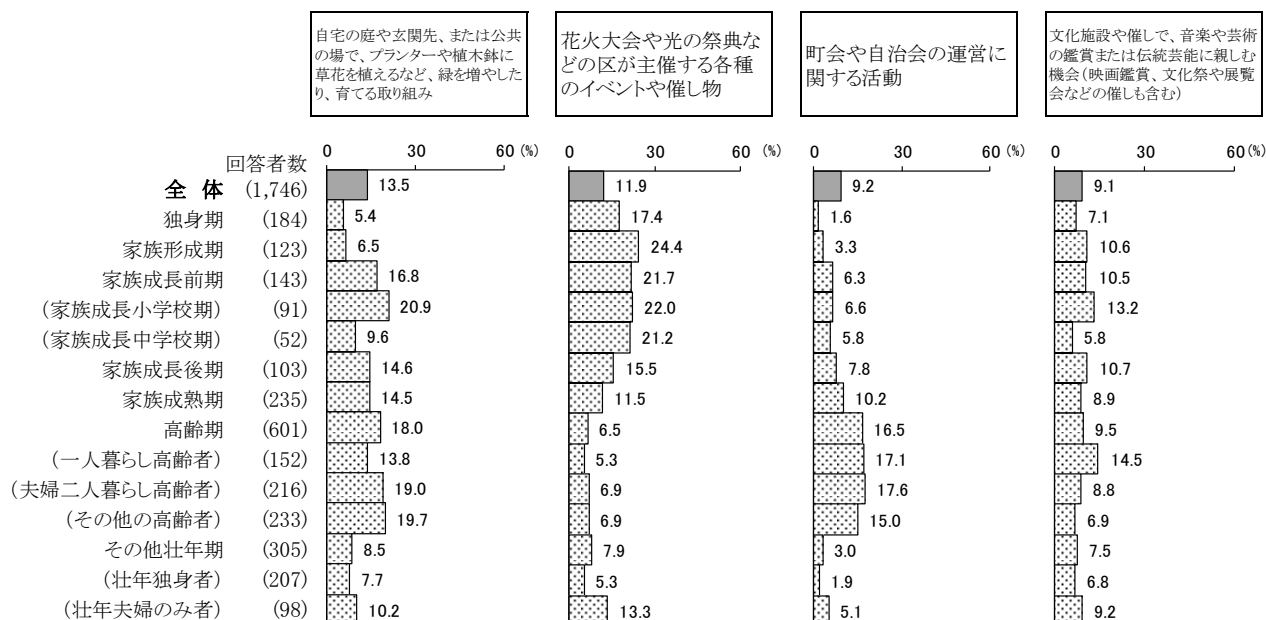
図8-4-4 性別、性・年代別／今後の参加意向／上位4項目



第3章 調査結果の分析 〈環境・地域活動〉

〈参加した活動〉についてライフステージ別でみると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」は家族形成期と家族成長前期で2割強から2割台半ば、「町会や自治会の運営に関する活動」は高齢期で1割台半ばと、それぞれ他のライフステージ層より高めとなっており、この2項目はライフステージ別の格差もやや大きい傾向がみられる。

図8-4-5 ライフステージ別／この1年間に参加した活動／上位4項目



〈今後参加したい活動〉についてライフステージ別でみると、「花火大会や光の祭典などの区が主催する各種のイベントや催し物」は家族形成期で5割を超えてとくに高く、「文化施設や催して音楽や芸術の鑑賞または伝統芸能に親しむ機会」も家族形成期が3割台前半で高くなっている。

図8-4-6 ライフステージ別／今後の参加意向／上位4項目

